



創立百十周年
記念式典のしおり

令和5年11月10日(金)

富山県立滑川高等学校

記念式典

(13:30～ 本校第1体育館)

開式の辞

国歌斉唱

式辞 学校長

祝辞 富山県知事

富山県議会議長

富山県教育委員会教育長

滑川市長

来賓紹介

祝電披露

挨拶 同窓会長

喜びのことば 生徒代表

校歌斉唱

閉式の辞

沿革概要

大正 2 (1913) 年	滑川町立滑川実科高等女学校創立
大正 12 (1923) 年	富山県立滑川高等女学校へ改称
大正 13 (1924) 年	滑川町立滑川商業学校創立
昭和 3 (1928) 年	富山県立滑川商業学校へ改称
昭和 10 (1935) 年	滑川町立薬業学校創立
昭和 10 (1935) 年	水橋町立東水橋実業学校創立
昭和 17 (1942) 年	水橋町立水橋商業学校へ改称
昭和 19 (1944) 年	富山県立滑川工業学校発足
昭和 21 (1946) 年	同校廃止し、富山県立滑川中学校発足
昭和 23 (1948) 年	上記校等に水産高等学校を加え、新制富山県立滑川高等学校として発足
昭和 25 (1950) 年	富山県立水産高等学校再設のため漁業課程、水産製造課程分離 家庭課程（後の家政科）及び定時制課程を設置
昭和 46 (1971) 年	家政科募集停止
平成 13 (2001) 年	定時制募集停止
平成 22 (2010) 年	滑川高等学校と海洋高等学校再編統合 海洋科新設
令和 5 (2023) 年	創立百十周年記念式典挙行



滑川高等学校校歌

作詞 北園 克衛
作曲 岡部 昌

一 朝日に匂う 太刀の嶺

雲井はるかに 青春の

赤き血に沸る 我等の日

加積の郷の 学舎に

栄えある歴史 うけ継ぎて

祖国をにない 集える我等

二 有磯の海に 風荒れて

思え車胤を 青春の

波のごと迅し 我等の日

雄々しく潔く 知と愛に

鍛えん秋を 惜しみつつ

理想に燃えて 集える我等

(昭和二十五年三月一日制定)



滑川高等女学校校歌

作詞 高柳林太郎
作曲 福井 直秋

一 空むらさきに匂へる朝

千古の雪をかづくかみ山

太刀の嶺仰ぎ見よ

我等いつしかその氣を亨けて

氣高き人とぞなりゆかん

二 空くれないに染みたる夕

真玉白玉しづくなぎさ

和田の浦臨み見よ

我等いつしかその氣を亨けて

智徳の道にも輝かん



滑川商業学校校歌

作詞 池縮 速雲
作曲 名和 君代

一 昇る朝日に照り映ゆる

空に雄々しき太刀の峰

一眸はるか海原の

怒濤逆まく有磯海

海と山とに恵まれて

我が学舎は峙てり

二 見よくれないの天つ日の

光明溢るる健男児

質實剛健胸に充つ

これぞ我等の象徴ぞや

いざや吾友手を取りて

勉め励まむもろともに

三 あゝ光輝ある日の本を

富ます力は我にあり

習ひ覚えし道をもて

雄叫び高く堂々と

大海原の際までも

国の光を輝かせ



滑川業業学校校歌

作詞 高見 裕之
作曲 川原 真之

一 陽は明けそめる立山に

永遠の希望は澄みわたり

さえぎる雲はなく汝は行く

学の道をたからかに

二 嵐と吠ゆる有磯海

試練の波は哮けるとも

乗り切る気魄汝は行く

学の道を雄々しくも

三 理想を高く謳歌して

照る滑葉の校舎に

集る心の意気高く

輝く処道はあり



水橋商業学校校歌

作詞 相馬 御風
作曲 不 詳

一 千古の白雪かがやける

霊峰立山仰ぎつつ

こころをたかめ日本の

栄えゆく道を火とすぢに

ひらかんわれら希望もゆ

万里に連なる潮波

一 日毎に仰ぐ立山の

千古の雪の尊さよ

有磯の海はとこしえに

不断の力つたえ打つ

二 水産日本の開発を

にないて集う健男児

ここ高月の学び舎に

求める真理世の光

三 理想は永久に一すじに

海に生きゆく雄々しさよ

祖国日本の名にかけて

きたえ果たさんわが業を

四 歴史は長し海国の

ほまれに生きる健男児

正しく強く世のために

水産富国の実あげん

五 ああ鐘が鳴る人類の

黎明つげる鐘が鳴る

はげめ学業ひたすらに

あかるく清き世のために



水産高等学校校歌 海洋高等学校校歌

作詞 高島 高
作曲 黒坂 富治